

JRの業務外注化と非正規雇用化に反対するニュースです。感想や意見、現場の情報をお寄せ下さい。dc-info@deluxe.ocn.ne.jp

8/27なくすな！久留里線集会

久留里・内房・外房守る会3団体の合同開催



「なくすな！久留里線8/27講演集会」が8月27日、久留里線と地域を守る会、内房線と地域を守る会、外房線と地域を守る会の3団体の主催で開かれ、約140人が集まりました。

千葉商科大学の伊藤教授が「ローカル鉄道の価値」をテーマに講演。質疑応答で多くの地域住民から意見が出され、「JRの説明は廃線ありきとしか思えない」の声があがり、主催した3団体代表の発言を紹介します。

「昼間に5時間半も列車がない」

久留里線と地域を守る会代表・三浦さんは、会の結成から1ヶ月ほどの間に569筆の廃

線反対署名が集まり5月17日にJR千葉支社に提出したところ、住民説明会で「廃線は困る」「昼間に5時間半も列車がないのは本当に不便。利用したくてもできない」など多くの住民からの切実な声を報告し、「今後も取り組みを進めていく」と語りました。

「社会インフラとして維持すべき」

内房線と地域を守る会代表・梅澤さんは、特急廃止・直通列車削減の問題や、内房線・外房線へのワンマン列車導入による安全性や通勤通学時の混雑の問題を訴えました。

そして、「山の中の家にも電線は引かれる。移動の足として必要としている人がいるならば、社会インフラとして維持すべき」「国鉄からJRになったといっても利益至上主義で良いわけがありません。地域の歴史や文化、経済、住む人の生活をないがしろにすることには断じて反対します」と訴えました。

「廃線反対に地域あげて取り組む」

外房線と地域を守る会代表・早川さんは、ワンマン導入の3日後に太東駅で乗客がドアに挟まれ骨折する重大事故の発生について、JRがホームの段差やワンマン導入の責任を認めないこと、段差を解消しないことは放置できないと訴えました。

また、「久留里線を『赤字がひどい』と廃線に持ち込んだ次は外房線、内房線の一部を同じように廃線に持ち込むのだと思う」「多くの赤字線が廃線になれば地域に住み続けることが困難になる。JRの廃線化に対して地域をあげて取り組む」と語りました。